

第1回 香川・高知両県知事会議 議事録

- ・日 時：平成27年5月15日（金）16:00～17:00（記者会見 17:00～17:30）
- ・場 所：琴参閣「飛天」
- ・出席者：高知県 尾崎知事、香川県 浜田知事

司会

皆さま、本日は大変お忙しいところ、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ただいまから「第1回香川・高知両県知事会議」を開会いたします。私は、香川県政策部長の工代でございます。開催県の担当部長として、進行役を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

まず、始めに、開催県であります香川県の浜田知事から、ご挨拶申し上げます。

浜田知事

それでは一言ご挨拶申し上げます。この度、香川・高知両県知事会議を開催することができまして、尾崎知事を始め、関係部長の皆様におかれましては、香川県にお越しいたいただき、誠にありがとうございます。心より歓迎いたします。

先ほどは、金毘羅さんの山を越え、金丸座を見ていただきましたが、高知とまた龍馬と縁の深い場所でございます。先ほどの町長さんの話では、金丸座ができたのも、龍馬が生まれた年と同じという、奇しくもそういうご縁もあるようでございますけれども、高知県と香川県は近いということだけではなく、いろいろな面で四国全体また、両県の活性化のためにこれまで努力しております。是非引き続き4県とも、ひいては四国全体が地方創生の動きをしっかりとしたものにしていけるようにしていかなければならないと思います。今取り上げている問題、流出する人口の問題については内閣府の総合戦略等を議論しておりますけれども、難しいところがあるかなという気がいたしておりますけれども、こういった問題を、両県で情報共有して、また知恵をお互いに出し合っってそれぞれの地方創生に繋げていくことができれば大変良いことではないかと思っております。今日は時間があまりございませんけれども、いろいろと議論をしていただいて、また高知県では皿鉢料理、大変おいしい料理がありますが、香川県におきましてもおいしいもの、うどんだけではなく食の味覚の宝庫という部分もございますので、是非ご経験いただければと思っております。今後とも自立し、持続的に発展できる取組をしてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。今日は本当にありがとうございます。

司会

それでは、続きまして、尾崎高知県知事様からご挨拶をお願いいたします。

尾崎知事

香川県の皆様、本日は、香川・高知両県知事会議をアレンジしていただき、ありがとうございます。

ざいます。また、「こういう会議をやろう」とご提案をいただきました浜田知事にも、心から感謝申し上げる次第でございます。

先ほど、龍馬像を見させていただきました。浜田知事からのご挨拶にもありましたが、香川県の方が、龍馬さんの像を作ってくださいったことに、高知県と香川県の歴史的なつながりや、香川県の方の高知への愛着を感じさせていただいて、大変嬉しい思いがしたところでございます。

香川県の皆様とは、これまでも四国知事会議や、産業競争力協議会等で連携・協調して取組みを進めさせてきたところですが、地方創生の議論が盛んに進む、更には南海トラフ地震にも備えていかなければならない中において、地域の特性を活かした取組みが非常に重要であります。また、地域の特性を活かしながら、共に手を携えて取り組むことで大きな効果を上げられることも多くなっていると思いますので、この両県知事会議は、両県でしっかりと課題を共有していきながら、共に取組みを進めていくための具体的な一歩につながる、非常に有意義な会議だと考えております。

改めまして、香川県の皆様には、本当に感謝申し上げます。我々としましても、この会議の場を大いに、そして有効に活用させていただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

司会

ありがとうございました。それでは、これより、意見交換に入らせていただきたいと存じます。本日の日程は、17時頃まで意見交換をさせていただきたいと存じます。その後、共同記者会見の時間を設ける予定としておりますので、よろしく願いいたします。なお、本日は、意見交換項目の担当部局長にも御出席いただいておりますので、私の方から御紹介させていただきます。まず高知県の方から、北村総務部副部長様、野々村危機管理部長様、井奥地域福祉部長様、中澤産業振興推進部長様、伊藤観光振興部長様。ありがとうございました。それでは香川県側、泉川危機管理総局長、野本健康福祉部長、伊勢野商工労働部長、安松交流推進部長、国分文化芸術局長。

それでは、これ以降の意見交換につきましては、進行も含めて、浜田知事、よろしく願いいたします。

浜田知事

それでは、早速意見交換に入りたいと思います。まず最初の項目、全体として「地方創生について」ということで、その中でも一番最初に「少子化対策及び子育て支援の充実」ということで、まず私の方から口火を切りたいと思います。全国共通であります。地方の人口の減少、香川県においては平成11年をピークに減少を始め、人口減が出生数の減少に表れて、自然減ということが大きく効いてきて、もちろん人口の流出といった面もあるのですが、基本的なところで未婚化・晩婚化の進行が進行して少子化ということになっている。こういうことから、若い人が少なくなっていく、その若い人がまた外に出て行ってしまって悪循環になっていますが、若者がその地域で家庭を持って子どもを産み育てるということで、そ

の中で、豊かな暮らしを実現できる、そういうことで少子化の流れを止め、長期的には人口の自然減を逆にしていく、人口増への転換というのを考えていく必要があると思います。

本県の事業といたしましては、結婚から妊娠・出産を経て、子育てまで切れ目のない支援を、地域の実情に応じて総合的に推進するとともに、独自に各市町が地域のニーズに応じた少子化対策や子育て支援事業を中長期的に実施できるよう、平成26年度に「かがわ健やか子ども基金事業」というものを創設して各市町の相当自由な裁量で、少子化・子育て支援に資するものであれば結構ですよということで、基本的にはトップを中心にやっております。国の方で婚活等についても構わないといった事業を始めておりますけれど、やはりこういったものについても財政的な裏付け、こういった資源を残していかなければならない。そうなれば、もっと幅が広がると思っております。地域においてきめ細かい対応となるように、この少子化対策交付金のより一層の拡充が求められていると思っております。いずれにせよ官民一体で取組むことが不可欠で、また、それぞれの地域でリーダーシップを持って、国の方も、指導力を発揮していただければと思っている次第でございます。そういったことで、高知県の方でも（…聞き取れず）。

尾崎知事

本県も平成2年から人口が自然減の状態に陥っており、少子化対策は非常に大きなポイントだと考えております。

特に、本県の場合は、課題となっている出会いの場の創出のための事業などに、地域少子化対策強化交付金も活用しながら、力を入れて取組みを進めてきているところですが、正直なところ、この少子化対策は非常に息が長い、時間のかかる事業だと考えております。

そのため、我々は地方として、しっかりと強い意志を持って、地域の特性を生かした取組みを継続していくことが大事でありますし、併せて、そういう取組みをしっかりとバックアップしていただく体制を国に作っていただかなければならないと考えているところです。

こうした視点から、全国知事会として一昨年から、様々な形で少子化対策の抜本強化を訴え、特に昨年は、「少子化非常事態宣言」を発出し、危機感を共有しながら、国に対しても強く提言してきたところです。

今年も、浜田知事のお世話になりながら、私がチーム長を務めさせていただいております、次世代育成支援対策プロジェクトチームにおいて、しっかりと力強く政策提言していきたいと考えております。

その中で、2つの点が今年も大きなポイントになると考えております。先ほど浜田知事が言われましたように、まず第一に、地域少子化対策強化交付金について、しっかりと使途も拡大し、かつ当初予算で計上するということがあります。やはり恒久的な交付金になりませんと、補正対応では、後々財源がなくなったときのことが心配で、自治体も事業を力強く推進・展開できないとも伺っていますので、やはり恒久財源化が非常に大事だと思っています。

そして、もう一つは子ども・子育て支援新制度であります。必要とされます1兆円超の財源確保が確実に図られることが非常に大事だと考えております。子ども・子育て支援新制度については、例えば地域の小規模な保育を応援する制度ができるなど、いろいろな形で一定

使い勝手の良い方向で取組みを進めていただいていると思います。

しかしながら、制度が複雑なため、まだまだ周知徹底が必要であることや、更に何と云いまでも、しっかりと財源を確保していただいて、制度の信頼感を全国的に高めていく必要があることなど、まだまだ課題があるのは確かであります。特に財源の確保について、しっかりと訴えていくことにより、これを確実にしてまいりたいと考えているところでございます。

単県としての取組みに加えて、また是非、香川県の皆様、浜田知事のお力もいただきまして、こうした要望をしてまいりたいと考えておりますので、またよろしく申し上げます。

浜田知事

ありがとうございます。本当にこの問題は、尾崎知事がいつも今がラストチャンスとおっしゃっている、そのとおりではないかと思えます。まだ間に合うけれど、もう後がないというような本当にギリギリのところ、地域によっては崩壊寸前というそういった中、逆に東京に行くとも人口減といった非常にそういったやりづらい面、本県におきましても県庁所在地や密集地、それぞれの地域毎にも状況が違うことを考慮していかないといけないという気持ちでおります。その関係で人口ビジョンを作って地方版総合戦略を作るということになっているわけです。それと関連して産業競争力、尾崎知事が会長をやっていただいております。その関係で、地方版総合戦略、四国産業競争力強化戦略並びに新型交付金というこういう関係について、これは尾崎知事お願いします。

尾崎知事

我々は地方として、主体的かつ精力的に、この地方創生の取組みを進めていく必要があると考えているところです。そういう中において、県と市町村との連携・強調がものすごく大事ですし、併せまして、特に、外国向けなど射程の長い仕事については、いわゆる四国4県が連携して取組みを進めていくことも非常に大事だと考えているところであります。

高知県の取組みについて、少しご紹介させていただきますと、「高知県まち・ひと・しごと創生総合戦略<平成27年度版>」を3月26日に策定いたしました。これは、高知県産業振興計画や、中山間対策のための政策パッケージなどを、平成27年度版に大幅にバージョンアップし、トータルで組み合わせて、総合戦略という形で策定したものでございます。

本県の場合、経済的に非常に厳しいものがございまして、市町村とベクトル合わせをして、しっかりと地方創生に取り組むことが大事だという、ある意味強烈な危機感を持っております。そのため、市町村とベクトル合わせをして取組みを進めていくためにも、本県の考え方を、しっかりと早めに市町村の皆様にお示しすることが大事だという思いで、総合戦略を少し急いでとりまとめたところでございます。

現在、産業振興推進部を中心に、地域地域の市町村支援のスタッフと一体となり、市町村の総合戦略の策定をサポートさせていただいているところでございます。

また、先ほども申し上げましたように、県域を越えた連携も非常に大事だと考えております。特にインバウンド観光の推進や、海外への商品の売り込みなどといった取組みは4県で

連携し、四国という単位で売り出すことが非常に有用な場合も多いと考えておるところでございます。

この点については、四国地方産業競争力協議会において、「四国産業競争力強化戦略」を平成27年度版にバージョンアップしたところではありますが、今後ともPDCAサイクルを回しながら四国4県連携のプロジェクトを力強く推進して参りたいと考えているところですので、ぜひ、引き続きご協力をよろしくお願い申し上げます。

そして各県の取組みや、各市町村の取組みを力強く進めていくためにも、新型交付金の取扱いが大事だと考えております。

地方創生先行型の交付金は、平成26年度予算の補正予算として措置されているところですが、地方創生の流れを恒常的なものにしていくためにも、恒久的な予算として、いわゆる当初予算に計上されることが極めて大事だと考えているところでもあります。

今後、いわゆる財政再建の様々な議論の中において、新型交付金をどういう形で計上するか、閣内においても、大いに議論されると思いますが、我々地方としても、積極的な議論を展開していくことが非常に大事だと思っているところです。

いわゆるこの新型交付金については、地財計画で措置される財源である地方交付税と同タイプの財源があるのはおかしいという議論が出てくる可能性があり、今後、この新型交付金と地方交付税とのデマケをどうするかがポイントとなると考えております。

しかしながら、いわゆる一般財源としての地方交付税と、地方創生の流れを加速するために必要な財源としての新型交付金は性格が異なるものでありますので、地方創生の取組みの具体例もしっかりと挙げていきながら、政府にしっかりと必要性を理解してもらうことが大事だと思っております。

例えば、好循環のサイクルを色々と作り出していくにあたって、いわゆる隘路や、ボトルネックとなる部分の解消や、更には、好循環のサイクルを大幅に加速させていくための新しい取組みなどに、新型交付金を充てることは、費用対効果の面でも非常に効果的だと考えられますので、そのような特別の用途に充てるための財源としての新型交付金と、地財計画の中で自由に全体を下支えする財源としての地方交付税を、しっかりとセットで確保していく必要があることを強く訴えてまいりたいと考えております。

ちなみに、地域によって実情がそれぞれ違いますので、隘路を解消するための事業や、好循環のサイクルを拡大していくための事業の内容については、できる限り地方に選ばせることが大事だと考えているところです。

これから、ますます議論が進むと思いますので、地方の予算の専門家であり、私の元上司でもあります浜田知事のお力を賜りながら、本県の主張を通していきたいと思っております。

浜田知事

ありがとうございます。やはり、我々も同じような課題を問題と感じております。

まず地方版総合戦略の策定・実施にあたっては、各市町との連携を強化して情報共有を図っていかなければいけないのではないかと、香川には8市9町ありますけれど、香川は高知県さんと違って県自体の取組みもまだこれからというところがありますので、そういったとこ

ろの課題を抱えています。

四国産業競争力強化戦略については、連携プロジェクトを着実に実行していくことが、また進捗・進行管理も必要かと思っております。

そして新型交付金の自己財源の確保は最大の課題だと思いますが、まずこの総合戦略の予定について報告しますと、内閣府のいろんな今回のいわば300億円の（…聞き取れず…）という話も絡んできて、我々としてもやはり10月には総合戦略、人口減も併せて提案をしたいと考えております。本来であればもう少しゆっくり年明けまでにとっていたのですが、市町の方でもっと急ぐところがあった場合、市町単独で行って構わないと聞いておりますけれど、やはり県全体の姿が示されない中では、市町も前に行きづらいたろうということで、現在のところ議会と相談しながら、10月を目指していくということで、今連絡会議等を市町と開いておりますし、意見交換会や内閣府からのヒアリングをしているところで、現段階では6月上旬に骨子案を出して行って、市町とも連携して、あるいは県議会でもご議論いただいているかと思っております。中身、人口の捉え方にしても、様々な議論があり、市町等も一致していなければならないのかどうかから始まって、数字を全部足しあげると合わないんじゃないかとか、そういった話を心配されますけれど、合う方が難しいんじゃないかと思っております。いずれにせよ、これからというところなので、是非先行して取り組まれている高知県さんの知恵を貸していただければと思っております。そして四国産業競争力強化戦略については、尾崎知事に取りまとめていただいておりますけれど、プロジェクトの進行管理など、改めて感謝申し上げたいと思います。この戦略、これが地方創生と重なる部分が多々ありますが、4県が一緒になって、四国の各ブロックの国の出先機関も一緒に、また経済団体も一緒に議論して、取り組んでいただいて、引き続き国への政策提言を行い、四国の要望を政策の上にしっかり反映していかなければ4県が連携して（…聞き取れず…）ならないよう、きちんと進捗管理していくことが重要かと。そしてやはり新型交付金について全体としての財政状況が厳しいといいますが、今後の財政再建に向けて弾いていくと、経済財政諮問会議でも社会保障に係る分野及び地方財政に既に締めがかかっているようなところがありますが、尾崎知事もおっしゃったように、必要なものを、重複している無駄なものに扱われては、地方創生といっても掛け声だけになってしまう。必要なところにはご理解をいただければならないと思います。交付税の話については、私としては1兆円の基準財政需要で説明していくのが本当にいいのかという、あのやり方では重複感が出てくるといいますか、本来交付税が足りていないところをアピールしていかなければならないのではないかなと思うのですが、一般財源をとにかく確保するという意味で交付税は非常に重要ですし、国の方から見ても交付税の一般財源（…聞き取れず…）という話とこの交付金をどれだけ（…聞きとれず…）できるのかと。裏側にあるのが、この一括交付金と似たような補助金の削減というか、まとめていくというような話が出てくるのではないかと、そういった懸念がありますが、やはり一般財源は一般財源として確保して、そのうえでこういった子育ても含めた交付金を制度化する、且つそこが地方創生のために重要な一丁目一番地であるということを、是非各地方団体が一緒になって訴えていく、住民の方への理解を得て声が届くようにしていくことが必要ではないかと思っております。内閣府でまた交付金の実

態を、運用・取扱いを、一生懸命心配していただけるのはいいのですが、もう少しハードの割合など様々なことについて、交付金の中身、使い方にしても、裁量の利く自由度の高い交付金としていただきたい。その代わり、きちっと県民なりメディアにも何にどういうふうに使ったのかと、それは何の効果を狙っているのかも含めて公表して、香川県はこういった事業をやっている、何のためにやっているのかをきちっと全国共通の様式で説明できる、そういったものを通じて説明責任を果たしていく。そこで責任を持つわけですから、何に使うかということは、あんまり内閣府が手とり足とりというのはいかがなものかなと思っております。その辺もまた、各県、高知県さんとも情報交換、ご相談していきながら、使い勝手の良いものに、本当に効果のあるものにしたいと思います。国が皆で頑張っやろうよとおっしゃってくれているわけですから、せっかく措置したのに使い勝手が良くないということでは、本末転倒だと思います。やや運用の話になってしまいましたけれど、この辺で、次のテーマ、南海トラフ地震対策等について意見交換したいと思います。この件については高知県さんの方からお願いします。

尾崎知事

国は、3月30日に、「南海トラフ地震における具体的な応急対策活動に関する計画」を発表しました。その中で、全国10県の重点受援県の中に、四国4県がともに位置付けられています。この点については、非常に心強いことだと考えているところです。

今後この南海トラフ地震対策につきましても、各地域レベルで取り組むべきこと、そして各県レベル、四国レベル、中四国レベル、更には全国レベルで取り組むべきことという形で各層、各段階における様々な協力体制がありうると考えているところです。

そういう中、この四国におきましては、本県は、これまでも香川県の皆様方に災害時に大いに助けていただけてきましたが、いざという時にまた、被災の度合いに応じて様々な形で、ご協力を賜れば幸いと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

特に、南海トラフ地震を対象として、香川県が四国の防災拠点としての機能を果たすことを基本目標に設定した国土強靱化地域計画の策定を進められていると伺っており、本県としても本当に心強い限りでございまして、感謝申し上げます。

まずは、香川の皆様方の安全・安心の確保が第一であることは当然理解しておりますが、その上において、いざ、南海トラフ地震が発生した時におきましては、四国全体の拠点としても大いに力を発揮していただき、本県もまた助けていただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ちなみに、本県でも、現在、南海トラフ地震を対象として国土強靱化地域計画の策定に取り組んでいるところでございまして、概ね策定の最終段階に入っているところでございます。この中におきまして、いわゆるL2クラスの最悪の事態を想定しまして、発災直後の命を守るための対策、そして応急対策、さらには復旧復興を視野に入れた諸対策について準備を進めているところでございます。

本県には、もともと南海トラフ地震対策用の行動計画がありますが、重ねて国土強靱化地域計画を策定することは非常に意義深いと思っています。なぜなら、市町村レベル、県レベルでやるべきこと、そして単県だけではできない四国レベル、さらには国レベルといった形で、国の国土強靱化計画と合わせて地域計画を策定することで、いわゆる境界問題と言いま

すか、対応すべきレベルについての理解が深まると考えているところです。

この地域計画を作っていく過程で我々だけではできない、国に負担をお願いしなければならないことが改めて認識できると思いますし、また国にもその点を具体的に訴えていくことになると思います。

また、国土強靱化地域計画を作っていく過程で、隣県同士、そして四国同士、すり合わせや協力が必要、もしくは助けていただくことになるといった点が非常に明らかになってくると考えておりますので、お互いが地域計画を作らせていただきました後にも、お互いの地域計画を照らし合わせながら、いざという時に備えて、協力の強化など、ぜひ今までと同様に今後も意見交換等を密にさせていただければと思います。またどうぞよろしくお願い申し上げます。

そして、また趣の変わる話ではありますが、国土強靱化の取組みと地域活性化の取組みというのは表裏一体の側面があると考えております。

津波から逃れるために日頃から支えあいのネットワークを築くことは、すなわち地域における福祉ネットワークを作ることと一体であります。また、企業において、しっかりとBCPを意識した取組みを進めておくことが、経営力自体を強化することにもつながると考えているところであります。

特に内閣府などにおいて、国土強靱化と地域活性化を一体となって進めていくことが、効果的かつ効率的ではないかという議論ができてきていると、伺っております。ぜひ今後、地域活性化に資する国土強靱化の取組みという視点を持って、新たな取組みを展開できればと考えております。

ある意味、国土強靱化だけで終わってしまっては勿体ない。普段使いもできるような防災対策であるからこそ、効果的かつ効率的であり、結果として国土強靱化と地域活性化が表裏一体となりうると意識して、取組みなどを進めていきたいと考えておりますので、また一緒に取り組ませていただければと思います。

浜田知事

ありがとうございます。南海トラフを震源とする地震が発生する確率、30年以内に70%というのは高知県の方では重々認識して受け止めておられると思いますけれども、香川県の方はそういう災害に対してまだまだ意識が高まっていないというような気も率直に持っております。尾崎知事がおっしゃった、国の具体的な応急対策活動に関する計画では本県を含め、四国四県が重点受援県となっています。香川県も震度7という地震が起き、また津波については恐らくまた内海に来るまでに時間が経過していると思いますが、その前に地震発生と同時に海岸堤防なり河川堤防が、被害想定は全部堤防は崩壊するというような崩壊率75%、そういう強度といえますか、計算になっているということは、堤防がなくても、恐らく河川でその時点での浸水、あるいは海岸線での、満潮時になっておれば堤防が守られることによって、地震発生の直後にまず浸水があるというのは非常に危険回避行動が取りづらくなっていきます。そういった面でも、対策をしていかなければいけないと思っております。

一方、国が取りまとめた対処方針の中では、四国の緊急災害対策本部は香川県高松のサンポート合同庁舎に設置されるということで、本県が四国の防災拠点としての機能を果たすことが期待されていると認識しております。我々としては、今尾崎知事がおっしゃった国土強

靱化地域計画、これを策定していく中で、四国の防災拠点としての機能を確保していきたいと思っております。基本的にはまず足元を固め、県内における被害を最小限にとどめるための対策を講じるとともに、自衛隊、14旅団が善通寺にありますけれども、国の動きを的確に把握しながら、四国の防災拠点としての役割を果たせるように体制を整えていく必要があると思っております。

いずれにしても、4県での連携・協調が極めて重要であると思っておりますが、その中で今尾崎知事がおっしゃられたとおり、国土強靱化の取組みというのは地域活性化に資すると、まさにそのとおりだと思っております。緊急輸送ルートや防災拠点の機能強化は、地域経済の活性化に即投資ということでありまして、自主防災組織によって、地域コミュニティの強化が図られる。こういったことで、地域社会の、今相当絆が薄れているわけですが、復活又は継続性を高めることが、ひいては地域活性化にも資すると考えておりますので、四国知事会議等を通じて国に対して、地域活性化に資する国土強靱化に係る予算の確保又は財政支援の充実等にも、4県として強く要望していく、提案していきたいと考えているところであります。

時間の都合で次に移らせていただきますが、次は四国の広域観光周遊ルートというテーマです。観光振興の中の四国の広域観光周遊ルートということでありまして、これにつきましても、尾崎知事の方からお願いします。

尾崎知事

国際観光の推進については、本県は香川県の皆様大変お世話になっておるところでございます。まず感謝を申し上げたいと思っております。

香川の皆様が定期便や、チャーター便の誘致などに、本当に積極的に取り組んでいただいております。お陰様で高知県も、外国人観光客が近年少し増えてきております。平成26年は前年の約4割増しであり、感謝を申し上げる次第でございます。

四国全体としても、外国人の延べ宿泊数が29万1430人泊、対前年比32.5%増という形であり、外国人観光客が増えてきています。しかしながら、全国シェアはまだ0.65%であり、1%にも満たない状況でございます。

そういう中で、国の進める広域観光周遊ルート形成促進事業での、四国の認定に向けた連携が急務と考えている次第でございます。現在、四国ツーリズム創造機構を中心に、四国遍路を地域資源の核とした四国の広域観光周遊ルート形成計画の策定を進めているところでございます。

四国遍路は、スペインの世界遺産「サンティアゴ・デ・コンポステーラ」といった巡礼路にも通じるものがあり、この度も日本遺産に登録されたところであります。さらに遍路道を通じて、様々な日本の原風景をご堪能いただけるため、ゴールデンルートに次ぐ、第二第三のディステーションを求める外国人旅行者の皆様にとって、非常に魅力的なところではないかと思っております。

ゴールデンルートをたっぴりと堪能された外国人旅行者は、地域との触れ合いを非常に大事にされると伺っており、実際に本県が、外国人観光客の誘致のため、シンガポールなどの外国の旅行エージェンツの皆様にお話しするときに、地元の皆様との触れ合いのある旅行が非常に好評でございますので、お接待の文化があり、人と触れ合うことができる四国での広

域観光が、第二第三のディステーションとして、望ましいのではないかと考えております。

全国的に非常に激しい競争がある状況かと思いますが、香川県をはじめ、四国4県で、連携をより強めながら、大臣認定に向けて取組みを強力に進めていきたいと考えておりますので、是非ご協力をよろしくお願い申し上げます。

浜田知事

ありがとうございます。今、尾崎知事がおっしゃったとおり、国のやはり例の訪日外国人2千万人が目標ですが、観光立国実現に向けて（…聞きとれず…）ということ踏まえ、全国津々浦々にこういう観光振興、ひいては地域振興ということで、オールジャパンで取組んでいく。そのためには魅力を発信するというので、広域観光周遊という話が出てきたと理解しておりますけれども、前から聞いていたのですが、5月27日には申請しろと、その辺が期限ということで、今、四ツ一創が鋭意ご検討いただいていると思いますけれども、やはり基本的なコンセプトは、四国遍路、四国全体を周遊する世界にも稀なルートが1200年にわたってあるわけですし、ニューヨークタイムズにも選ばれた、日本で唯一選ばれた場所が四国だということで、そうしたものを、大いに強調していきたい。その間、インバウンド（…聞きとれず…）としても、高松―松山間も入っていると思いますが、四国全体を周遊する、高知県さん或は徳島県、そういったところをぐるっと周ってくる。訪日外国人客、最初の1回目の人たちはどうしても東京とかに行ってしまうんですけど、3回目、4回目くらいになれば、四国の魅力というものにだんだん気が付いていただける。それを我々としてしっかり取り込んでいく必要がある。その関係で、この間日本遺産に認定されましたけれども、やはり世界遺産を目指す、これを、4県で協議会を設けて28年度には国の暫定リストに、これをやはりしっかりと取り組んでいく必要があるかと考えております。なかなかこれも厳しい競争ではありますが、そういったものを確固としていく中でこういう観光周遊ルートで四国の独自性、遍路の道といったところをアピールしていくことができるのではないかと考えております。大臣認定に向けての取組み、昇龍道とか北海道とかいろんな名前が出ておりますけれども、四国全体でルート指定、認定を得るために我々としても高知県さんと、また4県一緒になって取組んでまいりたいと考えております。

世界遺産の関係で言われておりますのは、スペインとの関係。スペインのガリシア州と四国全体の交流です。サンティアゴ・デ・コンポステーラがあるスペインガリシア州も4県あるそうですが、そういったところと協力して、日本でも熊野古道とサンティアゴ・デ・コンポステーラは姉妹道、姉妹巡礼道ということになっているようですが、そこを目指して行って、その中で、当然この観光地の方のルートにも認定してもらうように頑張っていきたいと考えております。そこで、先ほど尾崎知事もおっしゃった、高松空港に入ってくる台湾からの誘客の拡大ということですが、今日もこの琴参閣に、台湾の保険会社の団体旅行が、これ割とこういう（…聞きとれず…）いわゆるインセンティブ、保険のセールスマンとお客様（…聞きとれず…）こういう人たちのご褒美の旅行だそうです。台湾便の発着に合わせて何回も来てくれているようなのですが、是非更にまた高知も周ってもらって、2回、3回、今度は個人、夫婦で来ていただきたいと思います。リピーターを（確保することも）是非目指して

行きたいと思っております。販売されている旅行商品が高松・台北線については四国周遊で50%程度、四国+関西で20%程度だということで、向こうで販売されているエリアも台北が中心であります。もう少し四国へのウエイトが高くていいと思いますし、台中とか高雄とか、あちらの方からも来ていただけるように一台湾での販売エリアを広げていくのが一番かなと思います。そこで、高知県さんと連携して、両県の瀬戸内海、山間部、太平洋へ至るまで多様な自然資源を組み合わせ、他地域と差別化できるようなそういったルートの開発、台中や高雄などで、知名度が上がっていくような取組みができればということで、こういった辺りについても、高知県さんと連携して向こうでのキャンペーンやあるいはビジットジャパン、そういった点に焦点を当てて両県で取組んでいければこれから更にもっともっと伸ばしていくことができるのではないかと思います。、どんどん台湾から四国に訪れてくれるので、台湾、やはり非常に親日的でアットホームな感じがしますし、この高雄（…聞きとれず…）と思っただけの部分もあるようですから、そういったところを生かしていけたらいいなと思っております。尾崎知事からも。

尾崎知事

本当におっしゃるとおりだと思います。ご提案のあった連携について、是非積極的かつ具体的に進めさせていただきたいと考えております。

本県も、国際観光の推進という点において、台湾は誘客拡大の重点対象地域でございます。

本県には、台湾の皆様が大変人気だと伺っています大規模なスキー場などはありませんが、いわゆる清流が台湾の方にも人気だと伺っており、これが強力なキラーコンテンツになると考えておるところであります。

実際、平成26年の台湾から高知県への観光客は対前年比2倍程度に急激に拡大をしている状況であり、是非今後台湾からの観光客数を伸ばしていきたいと考えています。そういう中において、高松空港と台北を結ぶ航空便に、本県も大変大きな力をいただいているところであり、改めて香川県の皆様のご努力に感謝を申し上げます。

今後、本県が台湾におきまして、高知県観光や四国観光をPRする際に、例えば、香川県が作られました高松・台北便のPRチラシを是非一緒に配らせていただいて、セットでPRさせていただくといった形で、具体的な連携を図らせていただきたいと思いますし、台湾の旅行会社の皆様に、主に香川・高知を周遊する四国縦断ツアーの造成などを、連携して強力に働きかけるといった具体的な取組みを進めさせていただきたいと考えております。

台湾からの誘客について、本県はスタート地点についたような段階であり、力を入れなければいけないということで、今年から、台北の方に、本県の製品の売り込みや、国際観光を進めるための拠点を業務委託という形で設けさせていただいたところあります。そこでの売り込みなどの際に必ず、高松・台北便のPRも行うといった形で具体的に取組ませていただきたいと思いますので、いろいろとご協力をよろしくお願い申し上げます。

浜田知事

それでは関連して、JRのデスティネーションキャンペーン（DC）の29年度の春の四国

対象ということが決定したわけでありますけれども、これを契機とした、四国観光の底上げということで、このDCに向けて28年度、その手前も含めて、各県の4県の博覧会等の共同PRについて意見交換したいと思っておりますけれども、まず、尾崎知事。

尾崎知事

まず、4月29日から本県で開催しております「高知家・まるごと東部博」について、少しPRさせていただきたいと思っております。

「高知家・まるごと東部博」は、世界ジオパークである室戸地域や、岩崎弥太郎の生家のある安芸地域など、高知県東部地域の様々な魅力を発信する博覧会であり、是非香川県の皆様方にもPRのご協力を賜れば幸いです。

そして、平成28年、29年と、四国観光の側面において、非常に良い好機が来ると思っています。先ほどお話がありましたように、平成29年の春季のJRのDCの対象が四国となり、来年からプレDCということで、いろいろと準備が進められることとなりますので、是非この機会を生かしていきたいと思っております。

その平成28年度ですが、四国各県で博覧会等の開催が予定されており、例えば、本県では、「2016奥四万十博」の開催を予定しておりますし、四国各県がそれぞれ、世界に訴えていけるような魅力的な博覧会等を開催すると聞いているところでございます。是非、これらの取組みを共同・連携してPRしていければ、四国全体を売り込んでいくことができ、インバウンド観光の推進にもつながっていくと思っておりますので、是非共同して売り込みができれば非常に効果的と思っておる次第であります。

浜田知事

香川県の方も、まずは今年の夏に高松の港の方で、ウォーターフロントフェスティバルを実施して、去年も開催しましたが、夏休みに今年も、にぎわいづくりも含めて観光施策をやりたいと思っております。そして、その次に控えているのが瀬戸内国際芸術祭2016ということで、来年、年度で切れば28年3月20日スタートですので27年度になりますが、10月には東京、12月には大阪で企画発表会を開催したいと思っております。また、開幕直前2月にも東京で広報展など広報展開を実施していきたいと思っておりますし、四ツ一創が実施するプロモーションにも積極的に参加していきたいと思っております。そういった中で海外も含めて、芸術祭に来ていただいた方に高知県を周っていただいてもよろしいのではないかと考えており、また、前回意外と県内でも見に行ったという参加者が多かったのですが、是非、高知からも来場していただければと思います。九州に比べて四国の場合、域内の交流というか観光が少ない、結局自分たちが四国の外に見に行っているという感じで九州も、意識して九州の域内を行き来するようになったと聞いておりますが、そういったことも合わせてできればいいと思っております。時間の関係で、最後に土讃線での新たな観光列車、イベント列車の運行について、ちょっと私の方から申し上げさせていただくと、土讃線において、高知・香川のその魅力を十分に楽しむことが出来る観光列車が定期的に運行できないか、徳島県さんとも連携して、JR四国に働きかけてはどうかと思っております。あわせて、沿線市町村と

連携して、それぞれの独自の観光コンテンツの掘り起こしを行って、沿線を線で結んでいく滞在プログラムの企画・開発といったようなものを考えられないか。こうした土讃線を使って滞在プログラムを組みこんだイベント列車の運行等を、JR四国に働きかけられないかと、私ども考えているところですので、高知県さんの方もご意見をいただけたらと思います。

尾崎知事

是非積極的に連携して取り組ませていただきたいと思います。

先日、「高知家・まるごと東部博」の開会に合わせて、予土線のゼロ系新幹線を模した「鉄道ホビートレイン」が高知県東部を走ってくれました。私も乗せていただきましたが、本当に大人気で、いわゆる「撮り鉄」の皆様もたくさん沿線においでになっており、イベント列車の効果は大きいことを実感したところであります。

定時・定期の観光列車を土讃線でも運行していただくことは、四国観光全体の底上げにもつながっていきますし、先ほどお話しました、28年度のプレDC、更には29年のDCの取組みにもつながっていきます。

そして、何といても28年度、本県は「2016奥四万十博」、香川県は「瀬戸内国際芸術祭2016」、愛媛県は「えひめ南予博覧会」、徳島県は「春の阿波おどり はな・はる・フェスタ」を開催されると伺っており、四国それぞれの地域で地域博覧会等を非常に精力的に開催しますので、四国全体を大いにPRしていく良いチャンス的一年だと思います。

そういう点からも、土讃線で観光列車に新しく取り組んでいただければ、本当に良いと思います。徳島県とも連携させていただきながら、是非事務的なレベルでも検討を進めさせていただければと思います。

浜田知事

ありがとうございます。

そろそろ時間ということになりましたが、鉄道の魅力といいますか高速化ということで新幹線の方も、取り組んでいかなければならないと思っています。観光列車は本当に様々なところで好評のようですから、そういったものを香川・高知を結ぶ土讃線でも展開したいということでもよろしくお願ひしたいと思っています。

それでは、そろそろ時間も参ったということで、以上で会議を終了したいと思います。

司会

ありがとうございます。以上をもちまして、香川・高知両県知事会議を閉会させていただきます。それでは引き続き、この場で、記者の方のご質問をお受けしたいと思います。質問される記者の皆様は社名とお名前を言っていただきますようよろしくお願いいたします。

記者

毎日新聞四国支局の〇〇と申します。両県知事にお伺ひしたいのですが、今回の会議の率直な所感をいただければと思います。

浜田知事

第1回の会議ということになるのですが、これまでも4県知事会議あるいは中四国サミットというのもあって、これは中国6県と四国4県とそれぞれの経済団体、四経連、中経連が参加した、こういった集まりもありますし、もちろん全国知事会議でも尾崎知事は隣にいらっしやいますけれど、これからもいろいろ地方創生や子育て、そして防災・減災対策さらに観光関係と協力して連携していく必要がある、またできる思いがあるということ、今日改めて確認できましたし、様々な取組みについて、これから両県で一緒にやっっていこうということで、非常に意義のある会議になったと思います。

尾崎知事

やはり地方創生の取組みにしましても、防災対策にしましても各県単独での取組みが非常に効果的なものもありますが、あわせて、県同士で連携して取組むべきこともあり、むしろ後者の部分が近年、非常に増えてきていると考えております。

そういう中において、特に香川県は四国の中でも一番経済規模が大きい県であり、高知県がこういう形でお話させていただくことは、今後、地方創生を進めるにあたって、その実行性を高めるためにも、非常に有意義だと感じているところであります。

また、四国の防災拠点が香川県に置かれますので、防災対策という点でも香川県と高知県がお話をさせていただくことは有意義だと感じているところであります。

今日は浜田知事とお話をさせていただきましたが、今日に至るまでの間、事務方でもいろいろと調整をさせていただき、意見交換などを通じて、今申し上げたことをより深く実感したところであります。非常に有意義な会議ですので、ぜひ今後も続けさせていただければと思う次第です。

記者

もう一つだけ質問させてください。今日の会議の中で、両県知事さんにお伺いしたいのですが、全体に話し合えて良かったということなのですが、特に具体的にこのトピックを話し合えて良かったとか、その辺りいかがでしょうか。

浜田知事

私の感想として、特に地方創生に関して高知県さんの取組みが進んでいるわけですが、そういった話を、香川県も各市町と取組んでいくということで、実情がよく分かりましたので、参考にさせていただきたいと思います。また、観光について、観光庁の施策またJR等との調整、それぞれ関係団体と予定を組んでおりますけれど、そうしたものを確認して、また一緒に取組んでいくということを確認できたこと、これも非常に良かったと思います。

尾崎知事

私も同じであります。地方創生の関係で先ほど申し上げましたように、各県として取組む

べきこともあります。4県連携して県同士でタイアップして取組みを進めていくことも非常に重要であり、「四国産業競争力強化戦略」などを始めとして、香川県と連携して取組みを進めていくことを具体的に確認できたことが、非常に有意義でありました。

また、地方創生とも重なる話ではありますが、国際観光の推進について、香川県と共同して、PRなどに取組むといった点が確認できたこと、また、四国の広域観光周遊ルートの大枠認定に向けて、4県で共同して取組みを進めていくことを確認できたことも非常に良かったと思います。特に国際観光の点では、具体的な合意ができ、具体的なアクションについて話ができ良かったと思っております。

司会

よろしいですか。では、他の方でご質問のある方。

記者

高知新聞高松支社の〇〇と申します。まず、浜田知事にお伺いしたいのですが、今日の会議の提案というのは浜田知事の方からお声掛けがあったようにお伺いしていますが、大きな意味での隣県の連携が必要というのは分かりますが、四国知事会議が既にある中で、なぜこのタイミングで、なぜ高知県とこういう会議をもとうと思ったのかをもう少しお聞きしたいのと、第1回の会場で、この琴平町を選ばれた理由というのもお伺いしたいと思います。

浜田知事

こういったバイの会議になるわけですけど、マルチもありますけれど、バイも非常に重要だと。まだ徳島、愛媛としておりませんが、本県の場合は岡山と既にやっております。そういった県同士で、バイで話し合うのは非常に意義があると前から岡山との取組みを通じて思っておりましたので、先ほども言いましたように、知事会議ではいつも隣に尾崎知事がいらっしゃるし、私の方は勝手なことを言いますと選挙も終わりました、尾崎知事はこれからですけど、忙しい中ではあるのですが、合間でどうだろうかという話で、いい、という話になったわけです。

場所は、琴平を選んだのは、先ほども申しあげましたが、この会議の前に、琴平の金毘羅さんの山の裏側になるのですが、龍馬の像があります。いわゆる土佐海道、伊予海道が金毘羅に向かってくるところに比較的新しい銅像ですが、その前に石垣がありまして、ここを見ると、土佐、伊予の何某という名前がずらっと並んでいる石垣がありまして、また町長さんの話では、金毘羅さんの上の方は、旭社がありますが、そこに行くと龍馬の実家が寄附したものが残っているとか、そういうご縁もあります。土讃線沿いで、高知と香川を結ぶ由緒、縁のある土地ということで第1回に選ばせていただいた、さっき申し上げた、金丸座が作られたのが、龍馬が生まれた年だということも、今日小野町長に聞きましたけれど、様々な縁があるのがこの琴平ということで、この琴平という場所を選んだということです。

司会

よろしいですか。

記者

はい。

司会

他に質問のある方。

記者

高知新聞の〇〇です。尾崎知事にお伺いしますけれども、今回話し合いで愛媛県とは1対1の交流会議、これは長い歴史がありますけれども、この度香川県とも新たに開催して、徳島県とも今後考えていらっしゃるのかお伺いしたいと思います。

尾崎知事

取りあえず、香川県と始めさせていただいたところですから、まずはこれでいこう、ということかと思えます。ただ、先ほど、なぜこのタイミングでとのお話でしたが、非常に合理的な理由があると思えます。

6月4日に四国知事会議の開催が予定されており、これまでも四国知事会議の前に、愛媛県とバイの会議をさせていただいていました。同じように四国知事会議の前に香川県ともバイで議論をさせていただくことによって、四国知事会議での議論を非常に深め、有意義なものにできると思っています。このバイの会議を経て、四国知事会議に臨むことで、議論の幅も広がり、合意事項についても、具体的にしていくことができると考えているところです。

そういう意味で言えば、徳島県ともバイの会議をさせていただく方が良いということになるのかもしれませんが、まずは、今回、香川県の皆様とスタートさせていただきましたので、これを安定させていければと思っています。

司会

はい。他にございませんか。

それでは、ないようでございますので、これで質疑応答を終わらせていただきます。本日は、どうもありがとうございました。